

# 栗駒山、笙ヶ岳、そして西馬音内(にしもない)盆踊り

日時:前夜発 2025年8月16日~18日

メンバー:A原、T山、S澤

とある小さな無人駅の駅舎で仮眠させてもらう。

翌16日朝、始発がくる前に撤収し、登山口の須川高原温泉に向けて車を走らせる。木漏れ日が光線のように眩しい光を放っていた。

栗駒山へは岩手県側の須川温泉から登る。

須川高原温泉登山口に着き、8:15歩き出す。青白い源泉の流れの脇を行く。栗駒山へはいくつかのルートがあるが須川ルートは火山ガスのため通行止めなので産沼経由のルートを探った。

最初は樹林帯のなかで多少は涼しい。賽の河原では白い火山の荒涼とした山肌が見えた。名残ヶ原をすぎ沢を2本渡ると登りになる。樹々の間からは遠く鳥海山の美しい三角形が見えた。

産沼で道は二手に分かれるが右に行く。

10:50 栗駒山とうちゃこ。大勢のハイカーで賑わっていた。雪の時季は何度か立ったが緑の時季に山頂に立つのは初めてかも。

いま見ている青々とした緑の斜面は、スキーでの楽しいハイクアップや滑降のときの真っ白の斜面と同じものなのだけど、距離感がちぐはぐな感じがした。いわかがみ平へのなだらかな白い斜面をバカみたいに歓声を挙げながらあつという間に滑ったけど、無雪期に歩くととても遠そうだ。



栗駒山の山頂



スキーなら山頂からあつという間に下山

ゆっくり景色を楽しみ、下山は登りルートより東に大回りしたルートを探った。下調べをせず単純に下りがゆるくなるかと思いきや、そんなことは無く段差はあるしダラダラと長く遠回りだった。まあ、行きよりはお花が多いのがいい点だ。

13:50 須川温泉登山口着。

下山後のお風呂はもちろん須川温泉の白濁の湯に浸かる。ん”~いい湯である。広くて適温で混んでなく良かった。

一路、鳥海山の西の登山口、鉢立山荘へ向かう。今回のメンバーは鳥海山へは何度も行っているので「西鳥海」と呼ばれる笙ヶ岳に行くことにした。

スーパーで買出しをし、鉢立山荘に着いたのは17時過ぎ。ここは広い駐車場を備え、鉢立山荘のほかにもビジターセンター、展望台、ドライブインなどの施設もある。

山荘は立派なつくりでキッチン、シャワー、トイレ完備。素泊り1泊2000円では十分すぎる山荘だ。小屋は混んでいなく3人で広い個室をあてがわれた。

駐車場の芝生で日本海に沈む太陽とオレンジ色に染まる空をつまみにビールを呑んだ。風が出てきて部屋に戻って本格的に呑んだ。

消灯前の夜空にはミルキーウェイがあった。

鉢立山荘から。飛島も「光の道」も見えた



翌 8/17 5:00 鉢立山荘から歩き出す。

登山道は石畳と石段でできておりなんと御浜小屋まで続いていた。傾斜がゆるく振り返ると日本海が見えて気持ちよく歩けた。

御浜小屋からは登り下りをし、御田ヶ原分岐で右に進路をとる。鳥海湖を見下ろすように火口湖の縁を行く。鍋森を過ぎ、長坂道からは前方に笙ヶ岳 1 峰、2 峰、3 峰を見て、左は檜ノ沢源頭部を見下ろす。木道の脇は白山風露の群落があって平和な道だ。でもたしか春スキーのときは、このトラバースが長くていやらしくて抜け出すため右の尾根に上るのに T 野さんにロープを出してもらったっけ。

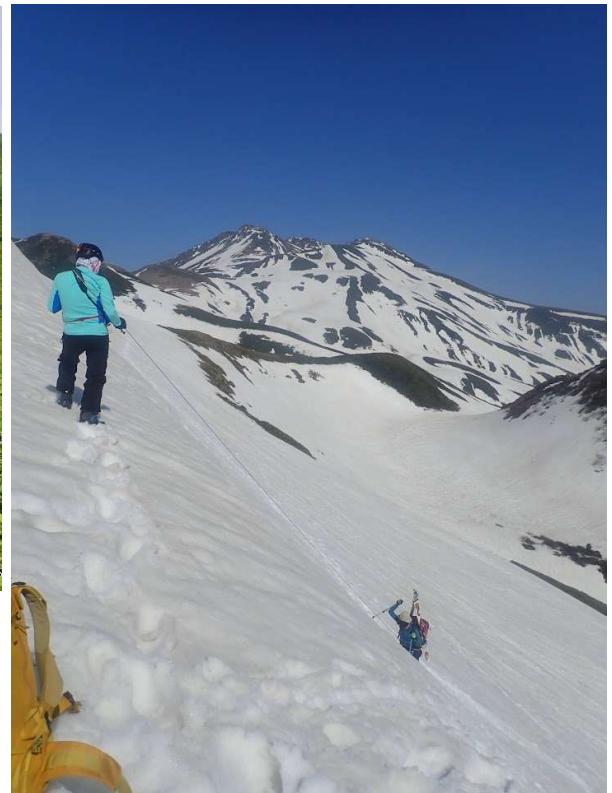
ガレと岩の鳥海山とは違い笙ヶ岳は青々とした笹と草の山容だった。1ヶ月ほど早ければニッコウキスゲが見頃だったろうが今はほとんど終わっている。代りに白山風露やチングルマの穂が風に揺れていた。

小さなアップダウンを経て 9:10 平坦な山頂に着いた。自分らしかいなくて静かなピークでのんびりと過ごした。

下りは、河原宿から賽の河原へのショートカットルートを使い、11:50 鉢立山荘へ下山した。おつかれ～下界へお風呂を求め走行中、日本海上に発生した竜巻が見えてじゅんじゅんとトクさんが興奮していた。



笙ヶ岳への登り



GW コワイ思いしたトラバース

さて、今晚は山行のメインイベント西馬音内の盆踊りである。わたし的には、お山でなくこっちがメイン！

秋田県羽後町の西馬音内の盆踊り。日本三大盆踊りのひとつらしいが、ほかの二つが「阿波踊り」と「郡上踊り」の超有名盆踊りでそれらと比べるとかなりマイナーだし規模も小さい。私の回りの秋田県出身者は盆踊りのことも「西馬音内」の地名すら知らない人もいた。わずか人口 3000 人ほどの町に、毎年 8/16.17.18 の盆踊り開催日には 10 万人超の観光客が押し寄せるという。

会場は西馬音内本町通り、通りの長さは約 300m 足らずを 700 人ほどの踊り子が舞う。

陽が沈みほの暗い空に下弦の月が浮かぶころ、通りにかがり火がたかれる。寄せ太鼓の囃子が鳴り響く。踊り手は頭巾や編笠で顔を隠し、異なる絹布をはぎ合わせた艶やかな端縫い衣装や藍染めの浴衣で身を包む。太鼓や笛、三味線などの勇壮なリズムと囃子、コミカルで風刺のきいた歌に合わせ優美で幻想的な踊り。浴衣の袖からのぞくピンと反った指先や浴衣からのぞく襟足が闇に白く浮かんで色っぽい。

摺り足で一回転する振付けでは、アスファルトに撒いた砂がザザーと音を立て囃子に呼応するかのようだ。幻想的で優雅でそしてミステリアスな盆踊り。

突然スコールのような激しい雨がきて、踊り手も観客も蜘蛛の子を散らすように屋根の下に逃げた。こんなことが 2 度ほどあったが大したことなく盆踊りを楽しめた。

最終日である今日は 23 時まで続くそうだが、私たちはちょっと早めに切り上げて、タクシーで泊り場に戻った。泊り場では、夜またスコールのような激しい雨がテントを叩いた。

ひと晩たっても盆踊りの囃子が脳内をぐるぐるしている。楽しかったなあ。

帰り道では、尾花沢でスイカ、桑折で桃を買った。ああ、アタシの夏休みも終わってしまったなあ、とちょっとセンチな気分になった。



西馬音内盆踊りを最初に観たのはもう 20 年近く前かしら。神室山登山をからめ盆踊りを観た。次に訪れたときは、赤湯又沢遡行をからめた。そして去年は杣藏山小屋泊まり山行。今年は栗駒山と笙ヶ岳をアタックしてから観に行つた。

盆踊りありきの山行。こんな醉狂な計画に去年に引き続き、トクさんとじゅんじゅんがエントリーしてくれてとてもありがたかった。感謝します。ありがとう。

盆踊り山行は私の中では夏の風物詩山行、大げさに言えばちょっとしたライフワークになりつつあります。毎年、お盆のこの時季、ここにきて一年無事に過ごせたこと、これから的一年が楽しく面白く過ごせることを願い祈る、そんな年間行事にしたいな、なんて思っています。

でも毎年お盆に西馬音内に出かけていたら、うちのご先祖様が草ばの陰から怒ってばちが当たるかも？  
くわばらくわばら。

### 【コースタイム】

8/16 栗駒山： 8:15 須川温泉 – 9:50 産沼 – 10:50 栗駒山 – 12:35 産沼 – 13:50 須川温泉

8/17 笙ヶ岳： 5:00 錐立山荘 – 6:55 御浜小屋 – 9:10 笙ヶ岳 – 11:50 錐立山荘

おしまい

記:A 原